

カンボジアの歴史を塗り替える大発見

—274体の廃仏発掘から判明した史実—

上智大学教授 石澤良昭

(上智大学アンコール遺跡国際調査団長)

私たち上智大学アンコール遺跡国際調査団は、国交のない時からアンコール遺跡において保存・修復・調査・研究・人材養成の活動を行ってきた。1996年には、カンボジア人遺跡保存官を養成するために現地に上智大学アンコール研修所(現在は上智大学アジア人材養成研究センター、以下センター)を建設した。その理由は、ポルポト時代にカンボジア人保存官の多くが不慮の死を遂げ、遺跡を守る専門家がいなくなったからであった。調査団は1992年から仏教寺院遺跡バンテアイ・クデイ(12世紀末建立、アンコール・ワットから東北へ約6km)を研修場所として選び、発掘(考古学)と保存・修復(建築学)の現場実習を現在も続けている。

そうした考古発掘実習を始めて10年目にあたる2001年3月、偶然にもこの境内から106体の仏像が発掘された。さらに同年8月には167点の仏像とその破片が出土した。加えて座仏が四面に1008体刻まれた千体仏石柱も発見された。2000年8月発掘の小仏1体を併せると、合計で274体が発見されたことになる。埋仏の時代は11世紀から13世紀であり、大部分が12世紀後半からのバイヨン美術様式に属し、三重のナーガ(蛇神)の胴体上に鎮座した典型的なアンコール仏である。

発掘状況から考察すると、廃仏埋納坑は深さが地上から約0.9m、一辺が約24m、底面で一辺が約2mの四角の穴が掘られ、底面の中心部に小仏や頭部など破片が集められ、その外側に胴体など大型石片が埋められ、そして土砂をかけながら突き固められていたことが判明している。これらの廃仏は埋められる前に頭部と胴体が切断されたらしく、同一個体に復元できるものは多くない。しかしながらこれら埋仏は約800年にわたり温度も湿度も一定であったため、保存状況は極めて良く、高貴で美しい尊顔を拝むことができた。

1860年のフランス人博物学者アンリ・ムオのアンコール遺跡報告から140年あまり経ったが、今回のように274体もの大量の廃仏および千体仏の石柱が発見された例はない。

なぜこうした廃仏埋納事件が起こったのか？ジャヤヴァルマン7世(1181～1219頃)は、アンコール王朝の中で最も多くの寺院を建設し、空前のアンコール王朝の栄華をつくり出した偉大な王である。王は強権を発動してそれまでのヒンドゥー教を退け、仏教を国家鎮護の宗教に据え、立国の思想を一部変更した。一種の宗教改革であった。

ジャヤヴァルマン7世の逝去後、1220年頃登位したインドラヴァルマン2世(1220頃～1243)も、仏教徒もしくは仏教を容認していた王であった。ところがその次に即位したジャヤヴァルマン8世(1243～1295)はヒンドゥー教のシヴァ神を篤信していたと思われる。その結果、この王の統治下において反仏教運動が起こり、仏像狩りが行なわれたのであろう。例えば王位継承などをめぐる権力闘争をきっかけに、王の命令で国内の仏教寺院の仏像が打ち壊され、棄てたのではないだろうか。

アンコール研究の泰斗フランス人Gセデスはインド系宗教の特徴として、①諸派の温情的傾向、②ヒンドゥー教と仏教がどこにあっても平和裡に共存していたと指摘してきた。たぶんジャヤヴァルマン8世は仏教信奉の前2代王の残余勢力と闘い、勝利して登位したのであろう。

これまで100年余にわたり、フランス人研究者たちにより組み立てられた通説というのは、ジャヤヴァルマン7世の約40年間にわたる過剰な寺院建設のせいでアンコール王朝は衰退し、15世紀になってアユタヤ朝に滅ぼされたというものであった。今回の廃仏発掘は、アンコール王朝が疲弊するまま衰退したという通説を覆すこととなった。

今回の大量の廃仏の発掘により、ジャヤヴァルマン8世の統治下でもそれなりに通常の政治が機能し、国内が維持されていたことが明らかになった。1296年にカンボジアを訪問した中国人周達観はその見聞録「真臘風土記」の中で、都城の繁栄振りを描き、王朝の疲弊した状況や危機的様子などはまったく言及していない。

これらカンボジアの国宝の発見は、地道な10年にわたるカンボジア人保存官候補者の研修最中の出来事であり、彼らの手で発掘されたことを喜ぶたい。私たちのセンターが掲げる哲学は「カンボジア人による、カンボジア人のための、カンボジアの遺跡保存修復」である。今回の大発見はまさしくこの哲学を現場で実践したわけである。

本号は「バンテアイ・クデイ遺跡出土の廃仏 274体研究概要および出土仏像・干体仏石柱目録特集」である。調査団はこの特集にあたり2002年上智大学春季コミュニティカレッジ(4月～7月)において発掘成果を発表し、さらに緊急国際シンポジウム「ここ掘れ、274体の廃仏！カンボジアの国宝大発見」(日時：2002年11月20日(水)、

会場：有楽町朝日ホール) を開催し、専門家による議論を重ねてきた。そして 274 体全点を写真撮影し、本号に収載した。本号について種々のご指摘およびご教示を賜れば幸いである。

以上